

分 かり と 快 感 !

# Z会ナビ

算数 理科 歴史 地理

お題

## 琉球がフランスにうそをついた理由とは？

(東京大学 2006年 日本史)

「Z会ナビ」が

Webサイト

でも読めます!



Z会おとナビ新聞

検索

これまでの内容も掲載しています!

次の文章(1)・(2)は、1846年にフランス海軍提督が琉球王府に通商条約締結を求めた際の往復文書の要約です。

(1) 海軍提督の申し入れ：尚巴志と尚眞の栄光の時代を思い出してほしい。あなたの国の船はコーチシナ(現在のベトナム)や朝鮮、マラッカでも活躍していた。あのすばらしい時代はなくなったのか。

(2) 琉球王府の返事：私たちの国は小さく、穀物や産物も少ないのです。中国につかえる国として、義務を果たしていますが、中国に納めるための品々は、隣国である日本のトカラ島で買うしか方法がありません。生活に必要な品々もトカラ島の商人によって日本から運ばれ、琉球の黒砂糖や酒、中国の商品と交換して暮らしています。もし、あなたの国と通商関係を結べば、トカラ島の商人は日本の法律によって琉球に来ることが禁じられます。すると、琉球は中国との関係も壊れ、生活もできなくなってしまいます。

この文書の「トカラ島」は架空の島です。このような架空の話により、琉球が隠そうとしたものは何か、説明しなさい。

今回は、江戸時代末期(幕末期)の琉球(現在の沖縄県)のお話です。江戸時代、日本は中国や朝鮮半島、オランダといった非常に限られた国としか通商をしていませんでしたが、幕末期になると、日本との通商を求めるヨーロッパの国々やアメリカの船が数多くやってきました。



イラスト・瑞木匠

## うそは長続きしない

なぜ琉球はフランスの提督に架空の話をしたのか、当時の事情を探っていきましょう。

### フランス海軍提督の言い分

まず(1)の提督の申し入れから見いきましょう。15世紀ごろ、中国が貿易を自粛する政策を採ったのに対し、琉球は積極的に東南アジアに進出し、中国・日本などの東アジア諸国と東南アジア諸国の間を仲介する貿易を盛んに行いました。この貿易により繁栄した琉球をさし

て、提督は「栄光の時代」と言っているわけです。

### 琉球王府の事情

しかし、幕末期の琉球は、提督の思っている時代とは大きく状況が変わっていました。表向きには「中国につかえる独立国」としていたのですが、当時の琉球は薩摩藩(現在の鹿児島)の実質的な支配下にあり、「独立国」とは言えない状況にあったのです。

17世紀初め、薩摩藩の島津家久の進攻を受けて以降、琉球は中国との貿易を薩摩藩に管理されたほか、黒砂糖の上納を強制されるなど、薩摩藩の支配を強く受けていました。独立国とはいえない状況の琉球でしたが、利益のあがる中国との貿易を続けるため、形式上は独立国の体裁をとっていました。琉球には、体裁と実態が大きく異なることを隠すために、架空の話を作って断らざるを得ないという事情があったのです。

【Z会・河原井彩】

### ! 今回の教訓

琉球と日本の不思議な関係は、明治時代に終わりを告げます。うそは長続きしないものです。



河原井彩さん 2007年にZ会入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在はデジタル技術を使った未来の教材を考えています。新潟県生まれの埼玉県育ち。